

社会福祉法人バオバブ福祉会

2015年度事業計画

みんなの願い・みんなの笑顔のために

1 2014年を振り返って

1, はじめに

障害者総合支援法・障害者優先調達推進法・障害者雇用促進法及び障害者差別解消法が制定され、「障害者の権利条約」の国会承認・批准され、2014年度は、障害者制度の大きな転換期の初年度になりました。

消費税率の5%から8%への引き上げとともに、“障害支援区分への移行”や“ケアホームのグループホームへの一元化”等が実施されました。また松原市においても、第四次障害者支援計画が策定されました。

2, 法人の歩み

法人にとっても、法人の立ち上げ前身である“バオバブ”が、誕生して30周年という節目の年にあたり、4名の新規入所者を迎え、次のステージへ歩む出す年になりました。

昨年度は、地域の皆様方とともに、「バオバブ」創設30周年という節目の年を迎えることができました。

30周年を前にして、バオバブ福祉会では、メンバーやご家族の切実な願いをもとに、法人の理念である「障害ある人もない人も地域でいきいきと生きることの実現」をめざして、新規事業を計画して来ました。

自助・互助・共助・公助のバランスのもと、公共（松原市）と民間（社会福祉法人）との役割分担を明確にしながら、施策を有効活用し、ホームの移転・増築と、新しい発想の生活介護施設建設をめざします。

具体的には、「メンバー及び家族の高齢化」・「障がいの重度化」という緊急の課題に対応し、生活や医療の支援を受けながらいつまでも暮らしていける「グループホーム」と家族介護者の負担軽減などを目的にした「ショートステイ」機能を兼ね備えた施設。地域生活サポートセンター「いこな」による相談活動支援サービスを兼ね備えた総合支援施設を展開し、さらに仕事以外の生きがいや楽しみを創造しながら、地域の皆様と連携できる「生活介護施設（第2えるで）」の建設を計画します。

松原市や地域の皆様のご協力により、バオバブ発祥の地に、2つの施設を開設する準備が整いました。一方で、2つの施設建設には巨額の資金が必要です。

これまでも、皆様方のご浄財をいただけてきましたが、なお、消費税増税と建設費の高騰により若干の資金が不足しています。本当に厚かましいお願いですが、再度、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

社会福祉法人バオバブ福祉会
(基金の呼びかけパンフより)

3, ネットワークのひろがり

「ホーム」と新しい「生活介護施設」の建設が可能になった源泉は、30年間に築かれてきた法人を支える地域のネットワークの力です。また、地域とともに歩んできた法人関係者の取り組みの成果でもあります。

地域のネットワークは、松原市内にも着実に広がり、2015年2月に、市内にある障がい者関連施設が集う「NPO法人障がい者支援ねっとまつばら」の結成につながりました。

30年の歴史につながるすべての人々に感謝し、ともに歩み続けることの大切さを再確認できた1年間でもありました。

2 2015年を迎えて

1, はじめに・・・理念と方針

社会福祉法人バオバブ福祉会の理念と方針は、次の通りです。

理念・・・障害のある人もない人も地域とともにいきいきと生きることの実現

方針 ①障がいのある人が、地域でその人らしく生活することをめざします。

②障がいのある人が、営む地域生活の中で生じるあらゆる課題に対応します。

③障がいの有無にかかわらず、ともに歩み、ともに生きる。向き合うだけ

ではなく、同じ方向を見て歩みます。

2, 方針①の具体化として 新ホーム「空」建設を確かなものに

2016年4月の開所を確実にするため、理事会・評議員会及びホーム家族会が、「その人らしく」を柱に、施設設備の検討を行います。正規職員中心の新しい職員支援体制を策定し、可能な限り実現します。

第2えるで(仮称)の建設・えるで大規模改修についても、同様の観点で、支援者と法人全体一丸となって取り組みます。

3, 方針②の具体化として ”生活介護”事業所として

これまで法人として、”就労支援型”ではなく”生活介護”にこだわって運営してきました。今後も、そのことを大切にしながら、メンバーさんや保護者に寄り添い、「生じるあらゆる課題」に対応できる職員体制を確立します。

「そこまでやらなければならないのか？」という疑問を持つ前に、関係諸機関を動かして、課題解決のために、法人全体で取り組みます。またメンバーの「生活」の情報を的確に捉え、開示できる課題については、理事・評議員会、全職員が共有できる法人運営に努めます。

4, 方針③の具体化として 職員研修と自律した職場づくり

障害者権利条約や障害者差別解消法等の学習、府社協主催各種研修会への積極的参加を通じて、理事・評議委員、職員の意識向上に取り組みます。

法人経営の安定のため、経理公開に努め、職員の参画意識を高めるとともに、自律した職場組織の確立を援助します。

5, ネットワークづくりとひろがり求めて

2014年度は、地域ともに歩み続けることの大切さを再確認させる画期的な年になりました。これまでのネットワーク（障大連、障連協、部落解放同盟松原支部、つるかめ苑、後援会、松原市内の学校園、地域の諸団体、ボランティア等）づくりの成果を広げるとともに、NPO法人障がい者支援ねっとまつばらへの活動に積極的に参画します。法人の社会貢献事業の一環として、認定NPO法人ふどばんくOSAKAと連携し、ホームを中心にした新たな活動の準備をします。

ホーム建設資金の自己資金率を高めるために、ネットワークを活用して募金集めを完成するまでつづけます。

【法人本部】

～新ホーム空の建設を含む組織・事業の拡大に、安定して取り組む～

- ・新施設（新ホーム、第2えるで）建設、「えるで」の大規模改修・増築

～新ホーム空の2016年4月開所にむけて、法人全体で一丸となって取り組む～

- ・運営会議

～運営会議から組織全体に、必要な情報や方向性が周知される体制作り～

- ・環境整備

～建物、設備の老朽化への対応を含めた必要な環境整備を行う～

- ・保健衛生

～利用者が良好な体調を維持できる、保健衛生の環境や体制を整える～

- ・危機管理、安全配慮

～危機、危険の未然防止と、発生時の迅速な対応～

- ・人材育成

～職員が自らのキャリアパスを描ける体制と環境～

- ・法人事務（法人会計、給付費請求、職員給与、職員労務ほか）

～法人運営の基礎として確実な事務業務の遂行する～

【えるで】

○生活介護部門

～メンバーそれぞれの個性、生き方に寄り添い、多様なニーズをくみとった支援を行う～

- ・個別支援計画

～メンバー一人ひとりの思いをくみとる～

- ・日中活動、生活支援、クラブ活動（個人活動班支援を含む）

～毎日を元気にいきいきと過ごす～

- ・相談支援

～メンバーを取り巻くあらゆる環境の変化に気づく～

- ・給食

～それぞれの嗜好や“食べる”を大切にしながら、健康管理に努める～

○活動部門

～メンバーの主体性を重視するとともに、障がい理解を含めた地域とのつながりを深める～

- ・行事活動

～地域とのつながりを深めるとともに、メンバーが楽しんで参加できるものにする～

- ・ボランティア

～えるでの活動に日常的に参加できるボランティアをえるでから積極的に募集して

育んでゆく～

- ・実習生・見学受け入れ、講師派遣

～地域とのつながりをより深める場として捉え、障がい理解を求めてゆく～

- ・地域内支援

～地域でのメンバーの生活を、より快適に過ごせるよう周りの理解を深めてゆくとともに、メンバーの社会性を育む～

- ・広報活動

～地域とのつながりを大切にし、新たな形での広報活動を模索する～

○生産活動部門

～メンバーの工賃の向上と、その人らしく“働く”ことを目指す～

- ・レザークラフト

～よい製品づくりと収益アップをめざす～

- ・さをり織り

～お客様に喜ばれる製品づくりをめざす～

- ・製菓

～安心・安全・おいしいお菓子作り～

- ・リサイクル

～地域との繋がりを大切に。より充実、安全なリサイクル活動に取り組む～

- ・パン配達

～地域とのつながりを大切に。全てのメンバー参加する活動として～

- ・軽作業（内職）

～自分たちの仕事であるという意識。得意なことを作業につなげ取り組む～

- ・清掃作業

～障がいのある人が地域の中で働くことを大切にし、その理解を広げる～

- ・外部作業

～外部作業を通じて、メンバーの社会経験の機会をもつ～

- ・就労実習

～メンバー、ファミリーのニーズをくみとり、その機会を開拓する～

【ホーム空】

○運営・管理部門

～新ホーム開所を見据えながら、安心して生活できる体制を整備する～

○生活部門

～これから地域で生活することを目指して！！～

【えるでヘルパーステーション】

～サービスの選択ができる事業所に！～

【地域生活サポートセンターいこな】

①相談員増員による体制整備とスキルアップを行う。

②計画相談の件数の増加

③本人活動支援事業の利用者増加